

—原著—

新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科において、粘膜・皮膚疾患に分類された
外来初診患者の臨床統計的検討芳澤享子¹⁾, 新美奏恵¹⁾, 三上俊彦¹⁾, 船山昭典¹⁾, 鈴木一郎²⁾, 小林正治¹⁾¹⁾ 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 顎顔面再建学講座 組織再建口腔外科学分野 (主任: 小林正治 教授)²⁾ 新潟大学医歯学総合病院 地域保健医療推進部 (主任: 遠藤直人 部長)Clinico-statistical survey of outpatients classified as skin and oral mucosa diseases
of the department of oral reconstructive surgeryMichiko Yoshizawa¹⁾, Kanae Niimi¹⁾, Toshihiko Mikami¹⁾, Akinori Funayama¹⁾,
Ichiro Suzuki²⁾, Tadaharu Kobayashi¹⁾¹⁾ *Division of Reconstructive Surgery for Oral and Maxillofacial Region, Department of Tissue Regeneration and Reconstruction, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (chief: Prof. Tadaharu Kobayashi)*²⁾ *Division of Community Health Promotion, Niigata University Medical and Dental Hospital (chief: Prof. Naoto Endo)*

平成 27 年 10 月 2 日受付 平成 27 年 10 月 5 日受理

Key words : 臨床統計的観察 (clinico-statistical survey), 口腔粘膜疾患 (oral mucosal disease)

和文抄録:

新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科における口腔粘膜疾患の現状を把握する目的で、外来初診時に粘膜・皮膚疾患と分類された患者について臨床統計的に検討した。対象は2009年1月から2014年12月までの6年間に当科を受診した外来初診・再初診患者10,625名のうち、粘膜・皮膚疾患に分類された578名である。今回は粘膜・皮膚疾患に分類されたものを、國領らの疾患分類に準拠して疾患別に分類して検討した。症例は男性230名、女性348名で女性に多く、年齢は男女とも60歳代がピークであった。疾患別では口腔白板症や口腔扁平苔癬などの角化性病変が232例(39.6%)と最も多く、次いでアフタなどの潰瘍性病変が146例(24.9%)、舌の病変108例(18.4%)、細菌・真菌感染29例(4.9%)、ウイルス性病変22例(3.7%)、色素異常12例(2.0%)、口唇の病変10例(1.7%)、水疱性疾患4例(0.7%)、薬理・物理化学的病変2例(0.3%)、その他22例(3.7%)であった。各疾患について行った精査と確定診断について調査したところ、異なる粘膜病変や扁平上皮癌、上皮内癌などの腫瘍性病変も認められた。そのため、口腔粘膜疾患の診断には生検などの精査を積極的に行うことが重要と考えられた。

Abstract:

Outpatients classified as skin and oral mucosa diseases of the Department of Oral Reconstructive Surgery, Niigata University Medical and Dental Hospital were studied clinico-statistically to determine the current status of oral mucosal disease. The subjects of our investigation were 578 of 10,625 outpatients who visited our hospital between January 2009 and December 2014. The 578 patients were classified according to the disease classification by Kokuryo et al. There were 230 male patients and 348 female patients. The most of patients were in their 60s. The most common diagnosis was keratinized lesions including oral leukoplakia and oral lichen planus (232 cases, 39.6%) followed by ulcerative lesions such as aphtha (146 cases, 24.9%), lesions of the tongue (108 cases, 18.4%), bacterial or fungal infection (29 cases, 4.9%), viral disease (22 cases, 3.7%), pigmentary anomaly (12 cases, 2.0%), lesions of the lips (10 cases, 1.7%), bullous lesions (4 cases, 0.7%), pharmacological and physicochemical lesions (2 cases, 0.3%), and other lesions (22 cases, 3.7%). Examinations and confirmed diagnoses of all cases were investigated. Consequently, there were oral mucosal lesions that were diagnosed differently from the first clinical

diagnoses and also tumorous lesions diagnosed histopathologically as squamous cell carcinoma and carcinoma in situ. The results indicate that precise examination, such as biopsy, is important for diagnosis of oral mucosal lesions.

【緒 言】

口腔粘膜疾患はその病態が疾患の特異性に乏しく、同一疾患でも病気によって異なった症状を呈することなどから、その診断に苦慮することも多い¹⁾。そこで今回、新潟大学医歯学総合病院口腔再建外科における口腔粘膜疾患の現状を把握する目的で、外来初診時に粘膜・皮膚疾患と分類された患者について臨床統計的に検討したので報告する。

【対象と方法】

対象は2009年1月から2014年12月までの6年間に当科を受診した外来初診・再初診患者10,625名のうち、粘膜・皮膚疾患に分類された578名である。当科では患者初診時に、歯の疾患、炎症性疾患、悪性腫瘍、良性腫瘍、嚢胞性疾患、顎変形症、外傷、顎関節疾患、粘膜・皮膚疾患、睡眠時無呼吸症候群、唾液腺疾患、先天性疾患、歯科心身症、神経疾患、その他に分類するが、今回は、その中で粘膜・皮膚疾患に分類されたものを國領ら²⁾の疾患分類に準拠し、角化性病変、細菌・真菌感染、舌の病変、アフタなどの潰瘍性病変、薬理・物理化学性病変、口唇の病変、ウイルス性病変、膠原病、色素異常、水疱性疾患、その他に分類した。なお、舌および口唇の病変に関しては、國領らが準拠した白砂らの分類³⁾を参考に、舌の病変は、地図状舌、溝状舌、正中菱形舌炎、黒毛舌、舌扁桃肥大、Plummer-Vinson症候群、Hunter舌炎³⁾の他に上記疾患に分類されない舌炎とし、口唇の病変は、肉芽腫性口唇炎、剥離性口唇炎、接触性口唇炎、先天性下唇瘻、口角びらん症、Quincke浮腫³⁾の他に上記疾患に分類されない口唇炎とした。

さらに、疾患別に初診時より行った精査の内容とその結果得られた確定診断について調査した。

【結 果】

1. 粘膜・皮膚疾患の年齢、性別

粘膜・皮膚疾患に分類された578名は、男性230名、女性348名で男女比1:1.5と女性に多く、年齢は1歳から96歳、男女とも加齢につれて増加し60歳代がピークで、平均年齢は男性61.4歳、女性60.1歳であった(図1)。

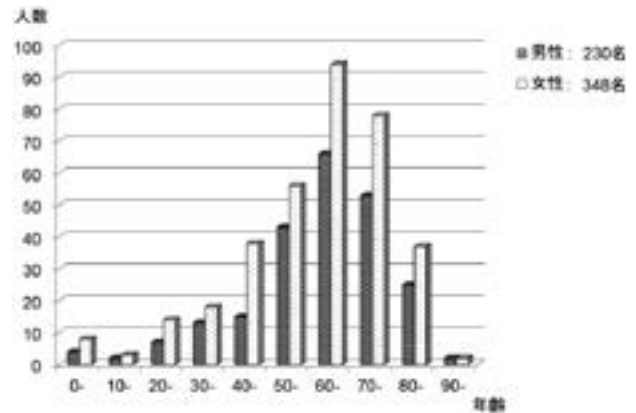


図1：粘膜・皮膚疾患の年齢、性別

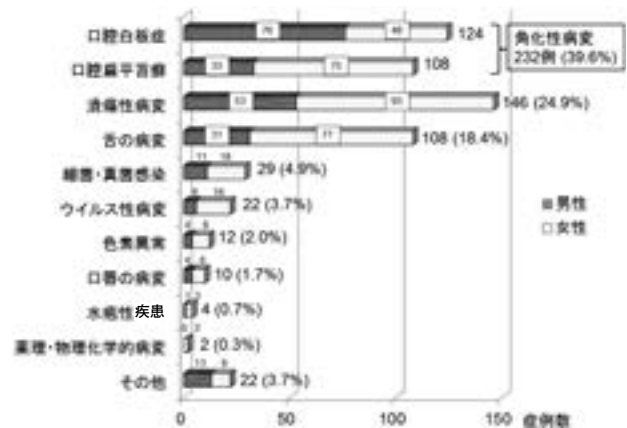


図2：粘膜・皮膚疾患の疾患別内訳

2. 粘膜・皮膚疾患の疾患別内訳

粘膜・皮膚疾患の疾患別内訳は、口腔白板症や口腔扁平苔癬などの角化性病変が232例(39.6%)、うち口腔白板症は124例、口腔扁平苔癬は108例と多く、次いで、アフタなどの潰瘍性病変が146例(24.9%)、舌の病変108例(18.4%)、細菌・真菌感染29例(4.9%)、ウイルス性病変22例(3.7%)、色素異常12例(2.0%)、口唇の病変10例(1.7%)、水疱性疾患4例(0.7%)、薬理・物理化学的病変2例(0.3%)、その他22例(3.7%)であった。また、口腔白板症は男性76名、女性48名と男性に多かったが、それ以外のものはその他を除き女性に多い傾向にあった(図2)。

3. 疾患別調査

1) 口腔白板症

口腔白板症124例のうち、精査を行った症例は94例(75.8%)、行わなかった症例は30例(24.2%)であった。